

## 学校感染症による欠席届について

学校保健安全法により、「学校において予防すべき感染症」には出席停止の期間が定められています。出席停止の期間は欠席扱いにはなりません。医師の診断・指示により登校が許可されましたら、下の「学校感染症による欠席届」を保護者の方が御記入の上、担任へ御提出ください。

## 学校感染症による欠席届

小学部・中学部・高等部 \_\_\_\_年\_\_組 氏名\_\_\_\_\_

下記の疾患について、\_\_\_\_月\_\_\_\_日に医師の診断を受けました。

このため、\_\_\_\_月\_\_\_\_日から\_\_\_\_月\_\_\_\_日まで欠席させていましたが、集団生活に支障がない状態ですので、登校を再開します。

疾患名：\_\_\_\_\_

受診した医療機関名：\_\_\_\_\_（電話：\_\_\_\_\_）

| 発症からの<br>日数              | 0日目<br>(発症日) | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 | 6日目 | 7日目 | 8日目 |
|--------------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 日                      | /            | /   | /   | /   | /   | /   | /   | /   | /   |
| 解熱した日<br>症状軽快日<br>(○を記入) |              |     |     |     |     |     |     |     |     |

※裏面の参考「学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準」を御確認ください。

## 【インフルエンザの場合 チェック☑】

- 発症後、5日を経過しました。  
 解熱したあと、2日を経過しました。

## 【新型コロナウイルス感染症の場合 チェック☑】

- 発症後(無症状の場合は、検査日から)5日を経過しました。  
 症状が軽快して1日を経過しました。

令和\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

保護者氏名\_\_\_\_\_

## 学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準

(学校保健安全法施行規則第 18 条)

令和 5 年 5 月 8 日改正

| 分類         | 病気の種類   | 出席停止の期間                                       |
|------------|---|---|
| 第一種<br>感染症 | エボラ出血熱, クリミア, コンゴ出血熱, 痘瘡, 南米出血熱, ベスト, マールブルグ熱, ラッサ熱, ポリオ, ジフテリア, 重症急性呼吸器症候群, 鳥インフルエンザ (H5N1・H7N9)<br>※上記の他、新型インフルエンザ等感染症, 指定感染症及び新感染症 | 治癒するまで  |
| 第二種<br>感染症 | インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)  | 発症した後 5 日を経過し、かつ解熱後 2 日(幼児にあっては 3 日)を経過するまで   |
|            | 百日咳   | 特有の咳が消失するまで、又は 5 日間の適正な抗菌性物資製剤による治療が終了するまで    |
|            | 麻疹(はしか)   | 解熱後 3 日を経過するまで                                |
|            | 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)   | 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで |
|            | 風疹  | 発疹が消失するまで                                     |
|            | 水痘(みずぼうそう)  | すべての発疹が痂皮化するまで                                |
|            | 咽頭結膜熱(プール熱)   | 主要症状が消退した後 2 日を経過するまで                         |
|            | 結核  | 病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで             |
| 第三種<br>感染症 | 髄膜炎菌性髄膜炎  | 症状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで             |
|            | 新型コロナウイルス感染症  | 発症した後 5 日を経過し、かつ症状が軽快した後 1 日を経過するまで           |
|            | コレラ, 細菌性赤痢, 腸管出血性大腸菌感染症, 腸チフス, パラチフス, 流行性角結膜炎, 急性出血性結膜炎, その他の感染症<br>(条件によっては出席停止の措置が考えられる疾患)  | 症状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで             |
|            | 溶連菌感染症, ウィルス性肝炎, 手足口病, 伝染性紅斑, ヘルパンギーナ, マイコプラズマ感染症, 感染性胃腸炎など   | 全身状態が悪いなど、医師の判断で出席停止を要する場合など                  |

通常、出席停止の措置は必要ないと考えられる感染症の例

アタマジラミ, 水いぼ, 伝染性膿痂疹(とびひ)